

(かもと稲田支援) 学校 令和3年度(2021年度) 学校評価表

1 学校教育目標

地域や家庭と連携しながら児童生徒一人一人に応じた教育活動を実践することで、児童生徒が自分に自信を持ち、夢に向かって挑戦する力や地域社会の中で生きていく力を育む。

2 本年度の重点目標

- (1) 安全・安心で優しい教育環境づくり
 - 児童生徒が安心して学び、生活できる教育環境の整備（危機管理体制の構築、安全教育・健康教育の推進）
 - 「道徳」の授業を中心とした相手を思いやる豊かな心の育成と人権教育の充実
- (2) 学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる授業づくり
 - 積極的なICT活用による学習支援の工夫と生活に結びついた確かな学力の定着
 - 自立活動の充実（適切な実態把握に基づいた系統的な授業づくり、教科等の学習との関連）
- (3) 地域資源の活用と地域に根差した教育の推進
 - 地場産業や地域の方々と協働した授業づくりと就労につながる地域との連携
 - 地域の自然や公共施設等を活用した健やかな心や体の育成（自然体験や自然散策等）
- (4) センターの機能を生かした地域の特別支援教育の充実
 - 学校公開等地域交流を通じた特別支援教育に関する情報の積極的発信
 - 幼児教育施設や小・中・高等学校への研修会等を通じた地域の子どもたちへの支援の充実

3 自己評価総括表

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|------|-----------------|--|--|--|----|--|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 学校経営 | 校訓に沿った考えや取組の具現化 | ・校訓の内容を理解し、校訓に沿った目標設定や実践に取り組むことができたか。 | ・校訓の内容や具体的な努力点を明確に示して、職員一人一人の意識を高め、日々の実践への浸透を図る。 | ・総務会や運営委員会で各学部、分掌部の取組内容を把握する。 ・校訓に沿った効果的な取組については、よい点を分析した後、職員全体に周知し取組の活性化を図る。 | B | ・校訓と学習指導要領との関連表を活用して、実施状況を確認した。 ・地域との交流など校訓に沿った取組が充実した一方、児童生徒の自己肯定感を高める取組の充実については更なる努力が必要である。 |
| | 働き方改革 | ・業務の精選、効率化が実施できたか。 ・職員の効率的な業務遂行に関する意識を向上させることができたか。 | ・業務の効率化を図るとともに、月間超過勤務30時間以内を厳守する。 | ・各分掌部から削減できる業務内容を提案し、全体のバランスを考慮しながら削減する。 ・個人の時間外勤務状況を定期的に把握し、業務内容の分析を行う。 ・毎月の運営委員会において時間外勤務状況の要因と改善策について検討し、検討結果を全職員と共有する。 ・ICT機器を活用し、集合形式でないリモートでの会議の実施やデータ共有などを行い、業務の負担軽減を図る。 | C | ・12月までの月の残業時間の平均は36.7時間となった。 ・働き方改革の本来の意味や学校全体の方向性を理解する研修を実施し、職員の意識を高めることができた。 ・毎月、残業時間の把握や職員の業務負担状況を把握し、改善について検討する会議を実施した。職員全体で負担をカバーするよう改善に取り組んだが、行事が重なる時期は残業時間が増えた。 ・ICT機器を活用したりリモート会議の実施やipadの活用で、移動時間や資料等の準備時間の削減につながった。 |

| | | | | | | |
|-------|-------------------------------|---|---|---|---|--|
| | 安全・安心な教育環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が安全に、安心して学校生活を送れるような環境整備ができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルを作成し、全職員が迅速で臨機応変な対応ができる危機管理体制を構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルを活用した各種訓練を実施する。また、毎月初めに全職員で安全点検を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・火災地震、不審者対応、救急対応など、マニュアルに沿った訓練を実施することができた。マニュアルに関しては、今後見直しをする予定である。 ・毎月の安全点検は予定通り実施でき、事後対応も事務部とスムーズに連携することができた。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・職員の危機管理意識の向上を図ることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事故防止への職員の意識を高め、危険予測や危険回避行動につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・月1回全職員がヒヤリハットメモを書く。事故発生時には、アクシデントレポートを作成し、情報を共有する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットメモの効果的な活用は検討が必要だが、アクシデント対応については、迅速に情報共有し、再発防止につなげることができた。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が衛生的で安全な環境で学校生活を送ることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・衛生的で安全な学習環境づくりに努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な校内整備と日常的な衛生環境の保持に努め、全職員で校内美化に取り組む。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の環境美化作業や行事毎の清掃など、校内美化に取り組むことができた。今後、日常の校内清掃に関して、役割を明確化していきたい。 |
| 授業の充実 | 学校教育目標を達成するためのカリキュラムマネジメントの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程改善のシステムづくりができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で共通の視点を持ち、教育課程改善に取り組むことができるよう、校内のシステムを整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程評価表を作成し、前期・後期で各学部において評価を行う場を設定する。 ・各学部での単元の評価や年間指導計画の見直し等教育課程改善の具体的な方法やスケジュールを整える。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・全教員を対象にアンケートを前期・後期において実施することができた。 ・学部での検討においては、それぞれの改善点等についての検討が中心となった。全体で共通の視点を持てるような取り組みの工夫が必要である。 |
| | ICTの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、各教科の指導の充実を図ることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の効果的な活用で、学習への興味・関心を高め、学力向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な操作研修や教育向けアプリの周知を図り、教員のスキルを高める。 ・職員の実践力向上を図るため、校内におけるICT機器を活用した効果的な実践の情報をTeamsで共有する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・研修を行いiPadや電子黒板等の基本的な操作を理解し、教師、生徒共に授業で積極的に活用することができた。 ・Teamsに限らず、GoogleClassroomやドライブ等を活用し教材や資料の共有ができた。 |
| | 自立活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた目標設定と指導ができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実態に基づいた個別の指導計画を作成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・講師招聘、グループワークでの指導計画作成や具体的な指導方法について情報交換等の職員研修を年2回実施する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・研修により個々の児童生徒の中心課題に迫り、目標を設定することができた。 ・専門書を購入したり職員の実際の指導の様子を動画で見たりし、多様な指導方法や教材について知ることができた。 |

| | | | | | | |
|------------------|--------------|---|---|--|--|---|
| キャリア教育 (進路指導) | キャリア教育 | ・キャリア教育推進の方策に沿った教育の実践ができたか。 | ・社会的・職業的自立に必要な能力や態度、主体的に自らの進路を選択・決定でき力を育てる。 | ・計画的・組織的な職場見学・体験活動を実施する。 ・関係機関と連携しながら、外部講師による授業を実施するなど日々の授業において、キャリア教育の充実を行う。 | B | ・各学部で地域の施設を訪問した仕事見学や就労している卒業生の講話等を実施し、職業への興味関心を高めることにつなげた。 ・夏休みに計画した、職場見学等はコロナ感染予防のため中止した。 |
| | 進路指導 | ・一人一人が持てる力を十分に発揮し、積極的に自立・社会参加ができる支援ができたか。 | ・各学部とも一人一人の持てる力を十分に理解し、自立・社会参加に向けた進路指導・体験学習を計画し、実践する。 | ・卒業後の自立した生活につなげるため、地域での体験や見学等を通して、生活に必要なルールの理解やコミュニケーション力の向上を図る。 | B | ・各学部で地域への校外学習を実施し、様々な体験を通してルールや身の回りの人々の様子を理解することにつなげた。 ・中学部・高等部での作業製品の販売会をとおしてコミュニケーションや流通などの仕組みを学ぶことができた。 |
| | | ・積極的に職場開拓やアフターケアを実践したか。 | ・高等部現場実習先の開拓及びアフターケアを実施する。 | ・卒業後の進路に結びつく計画的な現場実習の実施。 ・進路先へ定期的に訪問し、卒業生の状況の把握や進路先の関係者との連携を図る。 | B | ・高等部の現場実習は、時期や期間等の変更はあったが安全に実施することができた。 ・アフターケアについては、コロナ禍から、訪問できない施設もあり、限定的なものとなった。 |
| | 生徒 (生活)指導 | 主体的な児童生徒会活動 | ・小中学部と高等部の合同委員会や全校集会の充実ができたか。 | ・月に一回程度、小中高合同の集会を実施する。 | ・児童生徒の実態に応じた計画の作成と検討を行う。 ・「楽しく」「仲良く」活動ができるように異学年間の活動を取り入れる。 | B |
| | | | ・各委員会の取組の充実と相互の情報共有を図る。 | ・分掌部を中心に合同委員会や集会について学期ごとに評価を行い、気づきを実践に生かす。 | C | ・学期ごとの評価ができず、年度末の情報共有となった。 ・今後は、評価時期や各分掌部の評価内容を定めるなどし、確実な評価の実施に取り組む。 |
| 生活規範や交通安全 | | ・児童生徒が学校や社会のきまりやルールを理解し、遵守することができたか。 | ・児童生徒が社会や学校のルールを身に付けることができるようにする。 | ・きまりについて共通認識のもとで学習指導を行う。 ・各教科、日常生活の指導、その他、教育活動全般で指導を実施する。 ・校則に関して生徒や保護者の意見を踏まえた改善を行い、「自分たちの校則である」という自覚の向上とルール遵守の姿勢につなげる。 | B | ・児童生徒に対しては、クラスや学部全体など様々な集団において、生活のきまりについて資料を作成し、適切に指導を行うことができた。 ・校則の見直しについては、生徒や保護者の意見を取り入れ、意見を踏まえた校則を作り上げた。 |

| | | | | | | |
|---------|-----------------------|--|---|--|---|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールについての理解と遵守 | <ul style="list-style-type: none"> ・バス利用のきまりや自転車通学の決まりを守り、安全に通学することができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学期の初めに児童生徒の理解を促す説明を行い、保護者への啓発も併せて行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・バス内の過ごし方について児童生徒の実態に応じて丁寧に説明を行った。 ・課題があったときにはバスの委託先と連携して課題解決にあたることができ、安全に通学することができた。 |
| 人権教育の推進 | 命を大切にす る心を育む指 導 | <ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にす る心を育む授業 づくりができ ているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分は大切 な存在である ことが分かる ことを目標に した授業実践 を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の目 標、重点目標 に基づいて実 施し、命の大 切さや自分の よさについて 理解を深める。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標に基 づき、特別の 教科道徳を中 心とした授業 実践ができた。 誕生会の授業 では、自分は 大切な存在で あることが分 かり、誕生カ ードの掲示か ら、そのこと を毎日実感し たり、喜びを 周りの友達や 教師と共有し たりすることが できた。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・心のきずな を深める授業 づくりができ ているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分も友だ ちも大切な 存在であると 分かることを 目標にした授 業実践を行う 。 | <ul style="list-style-type: none"> ・心のきずなを 深める月間、 人権週間の取 組を年間指導 計画に基づい て実施し、自 分や友だちの よさについて 理解を深める。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・心のきずなを 深める月間 では、自分も 友だちも大切 な存在である ことを目標に した授業を行 った。 ・考えたことを 人権作品で表 現することや 人権子ども集 会の動画視聴 をとおして、 思いやりをも った行動の大 切さや今自分 にできること はなにか考え たりすることが できた。 |
| | 人権教育の理 解を深める取 組 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員への 理解啓発を 図ることが できたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の知 的理 解を深め、人 権感 覚を養 う実 践を 行 う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい人 権講座等の 研修参加や 研修資料の 共通理解、 全職員によ るレポート 研修を 実施し、人 権教育の理 解を深める 。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい人 権講座や進 路研修など の研修に参 加し、研修 資料を回覧 し共通理解 をすることが できた。 ・人権教育の 理解を深め るために、 全職員によ るレポート 研修（人権 教育実践交 流）を 実施した。 また、教職 員同士が互 いを理解し 合う機会と なるよう班 分けを工夫 した。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域や保 護者への理 解啓発を 図ることが できたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域や保 護者の本校 教育や児童 生徒につ いての理 解や関 心を深 め、人 権感 覚を養 う実 践を 行 う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい交 流会等の学 校行事や人 権啓発に 関する文書 案内等によ り、本校の 児童生徒や 、人権教育 の理解を 深める。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい交 流会等の地 域の方や保 護者を 迎えた行事 では、人権 教育コー ナー（授 業、人権 作品、職 員研修、 関連図書、 研修資料） の掲示物 により、本 校の人権 教育や児童 生徒につ いて理 解や関 心を深 めた。 |

| | | | | | | |
|---------|-----------------|--|---|---|---|--|
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に関する差別やいじめを防止する授業実践の様子や理解啓発を促す通信を発行することができた。 |
| いじめの防止等 | 早期発見、未然防止に向けた取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がいじめ防止の視点に基づいた学校生活を送ることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が支え合い高め合う集団づくりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動やLHR、自立活動の時間等にいじめ防止等の関連する学習に計画的に取り組む。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒間のトラブル等が起きたときに、児童生徒の実態や状況に応じて「相手の気持ちを考える」ことに関連する学習等に計画的に取り組むことができた。 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報や道徳の年間計画に位置づけ、実践する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育担当者と連携して、情報機器を使う際のルールを分かりやすく定めた資料を作成し、児童生徒が学ぶ機会を設けた。 ・年間計画に沿って計画的に実施ができた。 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における全職員の連携によりいじめを未然に防ぐ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の生活の様子を十分に観察し、保護者との連携や職員同士の情報共有を丁寧に行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・各学部でケース会議等を複数回実施し、児童生徒の実態の把握や職員同士の情報交換を行うことができた。 ・面談や連絡帳等を通して保護者との情報共有や対応について連携することができ、いじめ事案の発生を未然に防ぐことができていた。 |
| | いじめ問題への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・迅速かつ組織的な対応について理解ができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する教職員の意識や指導力の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ等防止対策委員会」を定期的実施し、いじめ防止に向けての取組について、情報共有をする。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ防止対策委員会」を計画的に開催することができた。 ・会議の内容を全職員に向けての発信や対応の共通理解を徹底する全体研修の実施ができなかった。 |
| 地域支援 | センター的機能の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理解・啓発を図ることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小・中学校等の教職員の特別支援教育についての理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育指導力向上研修や、依頼に応じて小・中学校等の教職員への研修を行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・指導力向上研修はコロナ禍のため演習ができなかった。 ・事後アンケートでは受講者の研修の達成度は9割と高いものだった。次年度の演習については、事前に担当者で共通理解や対応を確認する場を設けたい。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関等との連携を図ることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係機関との連携を深め、センター的役割を担う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・山鹿市教育委員会や黒石原支援学校、福祉関係等と連絡を取り合いながら地域支援を行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・山鹿市教育委員会、黒石原支援学校、山鹿市合理的配慮コーディネーターの合同会議に参加し、情報共有やそれぞれの |

| | | | | | | |
|---------------------|-----------------------|-------------------------------------|-------------------------------|--|----------------------------------|---|
| | | | | | 役割分担などについて話し合うことができ、連携の充実につながった。 | |
| | 一人一人の教育的ニーズの把握に基づいた支援 | ・校内支援の充実ができたか。 | ・児童生徒のよりよい支援について職員で話し合う体制を作る。 | ・児童生徒への支援についてのケース検討会を学部ごとに実施する。困難事例については校内支援委員会を開催する。 | B | ・対応に苦慮する事案や学習を効果的に実施するための支援方法等について学部ごとに2ヶ月に1回ほどのペースでケース会議を実施した。 ・支援について職員同士で意見を出し合うことで適切な支援に繋がり共通理解も図ることができた。今後は、校内全体でも共有できるよう研修方法や周知の方法を工夫する。 |
| | | ・巡回相談及び教育相談の実施ができたか。 | ・校外からの巡回相談及び教育相談に応じる。 | ・黒石原支援学校と連携し、事前に児童生徒の様子について把握したり行動観察を行ったりすることでニーズに基づいた支援を行う。 | B | ・黒石原支援学校と連携を密にし、山鹿市の幼、小、中、高等学校に20回以上巡回相談を実施した。 ・黒石原支援学校のコーディネーターと一緒に巡回相談を行うことができ、多角的な視点で対象児童生徒を把握することができた。 |
| 地域連携(コミュニティ・スクールなど) | 地域の方々や関係機関との連携 | ・地域の方々や行政・福祉等との関係機関との連携を深めることができたか。 | ・地域の方々の協力を得ながら授業や学校行事を開催する。 | ・地域の方々と児童生徒が交流する会を企画し、協力して準備や運営を行う。 ・事前打ち合わせを十分に行い、児童生徒が関わり合うことができる活動内容を設定する。 ・年間3回の学校運営協議会を実施し、総合型コミュニティ・スクールとしての地域との連携や役割分担を明確にする。 | A | ・コロナ禍ではあったが、稲作の取組やポッチャを通したふれあい交流会、開校記念式典など、地域の方々とともに様々な活動や行事を行うことができた。 ・学校運営協議会でいただいた助言等を元に、地域の方々の積極的な授業参加や危機管理体制の整備につなげることができた。 |
| | 理解啓発・情報発信 | ・地域への学校の取組等の啓発や情報発信を行うことができたか。 | ・学校の取組について地域への情報発信を年間複数回実施する。 | ・学校の取組についてまとめた分かりやすい資料を回覧板として発信する。 ・活動の様子を映した写真等をホームページに掲載し、理解啓発を推進する。 | B | ・山鹿市の広報誌や新聞への記事としての掲載、ラジオ番組への出演等を通して、学校の取組を周知することができた。 ・ホームページに活動の写真等を掲載するなどして理解啓発を行った。ホームページの見やすくタイムリーな情報発信について検討を続けている。 |

4 学校関係者評価

(1) 学校評価アンケート（保護者）結果

ア 回答率 100.0% (50/50)

イ 「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合（全16項目）

| 割合 (%) | 80%未満 | 80%以上 90%未満 | 90%以上 95%未満 | 95%以上 100%未満 | 100% |
|--------|--------|----------------|----------------|-----------------|--------|
| 項目数 | 0 (項目) | 2 (項目) | 4 (項目) | 8 (項目) | 2 (項目) |

【100%の項目（高い評価の項目）】

- 子どもは、健康で安全な学校生活を送っている。
- 教室や校舎内外が整理整頓され、清潔で安全な学習環境づくりができています。

【95%以上100%未満の項目（高い評価の項目）】

- 教師は、学校の校訓に沿ったかかわり方や指導に取り組んでいる。
- 教師は、子ども一人一人に応じた授業内容や指導方法の工夫に取り組んでいる。
- 教師は、子どもの指導や支援に熱意を持って一生懸命取り組んでいる。
- 教師は、特別支援教育に関する専門的な知識や指導力を身に付けている。
- 教師は、子どもの人権を尊重する姿勢で支援に当たっている。
- 教師は、保護者と十分に連携し、保護者の思いに誠意を持って対応している。
- 子どもの学校生活の様子が通信（便り・連絡帳）や学級懇談等でよくわかる。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画が適切に作成され、通知表で子どもの成長の様子がよくわかる。

【80%以上90%未満の項目（他の項目に比べ低い評価の項目）】

- 教師は、いじめを許さない姿勢を持ち、いじめ等を発見したときは適切に対応している
- 進路に関する情報提供や相談支援が適切に行われている。

(2) 学校評議員会での意見

- ・「心豊かに、道を求め、共に生きる」の校訓のもと、「地域」「連携」「一人一人に応じた」「自分に自信を持ち」「挑戦する力」「生きていく力」をキーワードとした教育目標の実現の基礎固めができた初年度だったと考える。
- ・元気をもらうぐらい、子供たちが生き生きとして過ごしており、充実した学校生活を送っていると感じることができる。
- ・先生方の子供たちの未来のことを考えておられるのが伝わった。
- ・保護者アンケートでも、各項目ごとに高い評価を受けており、素晴らしい。このことは、職員の丁寧なかかわり方を見て深く感じる部分である。
- ・今後も、学校発展のため、地域として協力できることがあれば支援していきたい。
- ・小中学部校舎の周りは、豊かな自然に囲まれている。今年度取り組んでいる稲作に関する一連の活動を実施する際、多くの地区を回って実施し、その地区の習わしや風土を学習する取組も良いのではないかと。
- ・「地域に貢献する学校」の実現については、地域の「人、物、事」にどう影響を与えながら、WIN、WINの関係を築いていくかが大切である。
- ・山鹿市手をつなぐ育成会は、令和3年10月に山鹿市教育委員会と話し合いを持ち、「県立特別支援学校と義務の学校との連携強化」として定期的な交流、活発な情報共有等の密接な連携について要望した。そこでは「子供たちへの具体的な指導や支援方法等の組織的な支援体制作り」に努めている。」と回答をいただいた。本校の「地域に貢献する学校」の視点からも今後の歩みに期待する。
- ・保護者のアンケート結果にあるように、進路に関する不安が目についた。実際に特別支援学校を卒業して働いている先輩方の様子を見に行く取組も良いのではないかと。
- ・施設の維持管理等、大変なことが多いと思うが、地域一帯となって取り組める体制作りが必要であると感じた。
- ・いじめ防止対策では、学校内でしっかりと取り組んでいるが、保護者の評価はやや低い。進路については、高等部入学後の取組だけでなく、幼少期の「愛着形成」や児童少年期の「自己表現、コミュニケーション」、その後の「働く体験」等の積み上げが必要であると考え。高等部だけでなく、小中学部でも意識した取組が大切であると考え。そのことを保護者には、現状や説明等を折々に行っていくと良いのではないかと。
- ・ホームページは、開校前からこの一年間の様子が詳細に紹介されており、子供たちや学校の様子やよく分かり感心した。

5 総合評価

(1) 学校教育目標について

保護者や地域の方々の協力を得ながら交流行事を実現したり、地域に本校の取組を積極的に周知をしたりするなど、地域や保護者の意見を取り入れながら学校運営を行うことができた。児童生徒は、地域の方々のたくさんのかかわりや愛情を受けることができた。

「心豊かに」「道を求め」「共に生きる」の校訓と学校教育目標の内容をリンクさせることで、普段の実践が学校教育目標に沿ったものになるだけでなく、校訓そのものを実現させることにつながった。

(2) 本年度の重点目標について

ア 安全・安心で優しい教育環境づくり

開校初年度ということもあり、各種マニュアルの整備や漏れのない安全点検箇所の洗い出しなど、基礎から作成した。また、小中学部校舎と高等部校舎が分かれていることから、職員で検討を深め、各校舎における安全の確保と両校舎の連携がある程度構築できた。

イ 学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる授業づくり

児童生徒が、これまでの授業をipadを使って振り返り、最も楽しかった内容を自分で写真データを選択するなどして決定し、データとして集めていくなど、ICT機器を活用した新たな実践も生まれてきている。

自立活動においては、適切な実態把握ができるよう、ゲストティーチャーを活用しながら方法について知見を高めた。また、自立活動の実践を動画で保存し、教師同士がアプリ上で評価し合う取組を行うなど、授業の充実のみならず、各校舎が離れている本校の課題を克服する取組も行った。

ウ 地域資源の活用と地域に根差した教育の推進

地域の方々の参加で実現した「ふれあい交流会」、地域の方々がゲストティーチャーとなって稲作や伝統工芸について教えていただく機会など、地域の方々の協力を得ながら地域に根ざした様々な取組を行うことができた。

エ センターの機能を生かした地域の特別支援教育の充実

山鹿市を担当している黒石原支援学校と連携しながら、幼小中だけでなく、高等学校へも巡回相談を実施し、実態や課題の把握をしっかりと行うことができた。

(3) 自己評価総括について

多くは、「A：目標を上回って達成できた」「B：達成できた」という評価であるが、働き方改革の部分や委員会活動の情報共有の部分では、「C：達成までもう少し」という結果となった。

ICTを活用した授業の推進や人権教育、いじめ防止の取組などは開校初年度の繁忙な状況の中、しっかりと取り組むことができたという評価となった。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 職員の専門性の向上

本年度の取組を通して、ある程度の職員の専門性の向上は見られた。しかし、初めて特別支援学校に勤務する職員や経験の浅い職員も多いため、実践の内容にも差がある。今後も継続して取組を行っていく必要がある。

また、個々の職員の専門性の向上だけでなく、学校組織全体で個々の職員をカバーしていくことも重要である。そのためには、職員同士の良好な関係作りや連携の促進、報告・連絡・相談に関する組織的な仕組み作りなど様々な視点での取組を行っていく。

(2) 進路指導の充実

地域に根ざした教育の一環として、本校で学び、卒業後もこの地域で働くことができることを目指していきたい。今後は、地場産業や地域の方々と協働した取組を、高等部だけでなく小中学部でも行うなど、生活年齢に応じた幅広い取組を行い、卒業後の就労につなげていく。

(3) 業務の精選、効率化、職員の負担感軽減

残業時間の削減や職員の負担感軽減のため、今後も更なる業務の整理や見直しを行っていく。また、ICT機器を活用し、業務の効率化や会議等の準備に関する負担軽減も同時に行っていく。

(4) 地域支援の充実

これまで、幼稚園、小学校、中学校、高等学校への巡回相談など、各学校への直接支援を中心に行ってきた。今後は、こういった直接支援だけでなく、行政や福祉機関と連携し、合同で各種研修会を企画するなど幅広い視野を持って、地域の特別支援教育充実に努めていきたい。